

東京宝島推進委員 アレックス・カー 島への提言

離島へ行こうとすれば、交通の問題など、さまざまな不便に直面する。

それらを乗り越えて行った人たちにとって、まず必要なのが泊まる場所。

離島で快適にゆっくりくつろげる環境がほしい。

増して小笠原諸島などは、一泊で行けるような場所でもないので、縁側に座って本を読めるようにしたり、バカンスとして気持ちよく過ごせるようにしていく必要がある。

現在はホテルというよりもロジやヴィラが好まれる。そのやり方として、二つが考えられる。ひとつが空き家のリフォーム、もうひとつが新しく作ること。

空き家に関しては、本土にあるような大きな梁や桁を持つ古民家は少ないかもしれないが、比較的新しい家でも上手く直せば、良い雰囲気を作り出すことができる。島の人達は、大人数が爆発的に押し寄せることは望んでいないかもしれない。

このような形であれば、比較的大きな収入を期待できると同時に、少数に抑えることもできてコミュニティへの負担・影響は小さい。空き家のメリットは、島の生活を味わえること。

東京宝島推進委員 アレックス・カー 島への提言

まだ行ったことがないので何とも言えないが、お客の行きたい場所のまわりに家がないということもあるかもしれない。その場合、新しくても自然環境に溶け込ませた施設を作れば良いと思う。新しく作ることのメリットは、眺めの良い場所や、アクセスの良い場所を選ぶことができる点である。

いずれにせよ、宿泊施設がしっかりしていなければ離島には行きにくい。

わざわざ時間とお金を費やして行くからには、美しくおしゃれな環境で過ごしたいと思うのが普通である。

既存の宿泊施設もあると思うので、彼らが興味を示すようなら管理をお願いするのもひとつの手。

一般レベルのビジネスホテルは、民間でも作れるかもしれないが、それ以上のものとなると、小値賀島のように、行政の助けが不可欠。

そのために、まず都が各島の現状を調査することが必要。その結果を島民とも話しながら、次のステップを考えていけば良い。